スーパーグローバルハイスクール事業 H26～H29年度の効果測定と将来展望

平成３０年１月１９日（金）
スーパーグローバルハイスクール管理機関等連絡会

SGH研究班研究代表者　筑波大学大学院教授
永井　裕久

各年度のSGH調査プロジェクトテーマ

H26
- グローバルコンピテンシー・マインドセットの探索

H27
- 10ヵ国比較による日本の高校生のグローバル能力水準測定

H28
- SGHプログラム受講の成果（受講生VS非受講生比較）

H29
- 高校教諭の視点にもとづくSGH実践成果

H30
- ⑩展望：SGH卒業生の追跡調査と多面評価（案）

H26 （調査概要）
コンピテンシー・マインドセット探索

先行研究にもとづき、次世代グローバルリーダーに求められるグローバル行動力（コンピテンシー）および、グローバル意識・視座（マインドセット）の尺度を開発する。

インタヴュー調査

- 全国**25**校・**97**名
  ４名（性別×国際経験有無）
- クリティカルインシデント

妥当性検証

アンケート調査

- 全国**73**校・**1,911**名生徒
- グローバルコンピテンシー
- グローバルマインドセット

信頼性検証

H26（結果１）：グローバルコンピテンシー（6点尺度）

- 出来事から学んだことを振り返る(4.42)
- 自分と異なる立場の人の価値観を尊重する(4.36)
- 相手との協力関係を築く(4.21)
- 相手が置かれた気持ちを察する(4.15)
- 問題解決に向けて強い熱意を持ち続ける(4.05)
- 複数の視点から問題の原因を考える(4.01)
- 複数の選択肢を考える(3.95)
- 必要ならば、最初に決めたことを変える(3.85)
- 相手が意見を述べやすいように心がける(3.83)
- 自分の得意な能力を活かす(3.74)
- 反対意見にも耳を傾ける(3.70)
- 自分の意見を効果的に述べて相手に説明する(3.58)
- 解決が進んでいるか途中で確認する(3.58)

経験からの学習、関係性の構築や相手の気持ちを汲むことが長所である。一方、変化への対応やプレゼンテーション能力が課題といえる。

H26（結果２）：グローバルマインドセット（6点尺度）

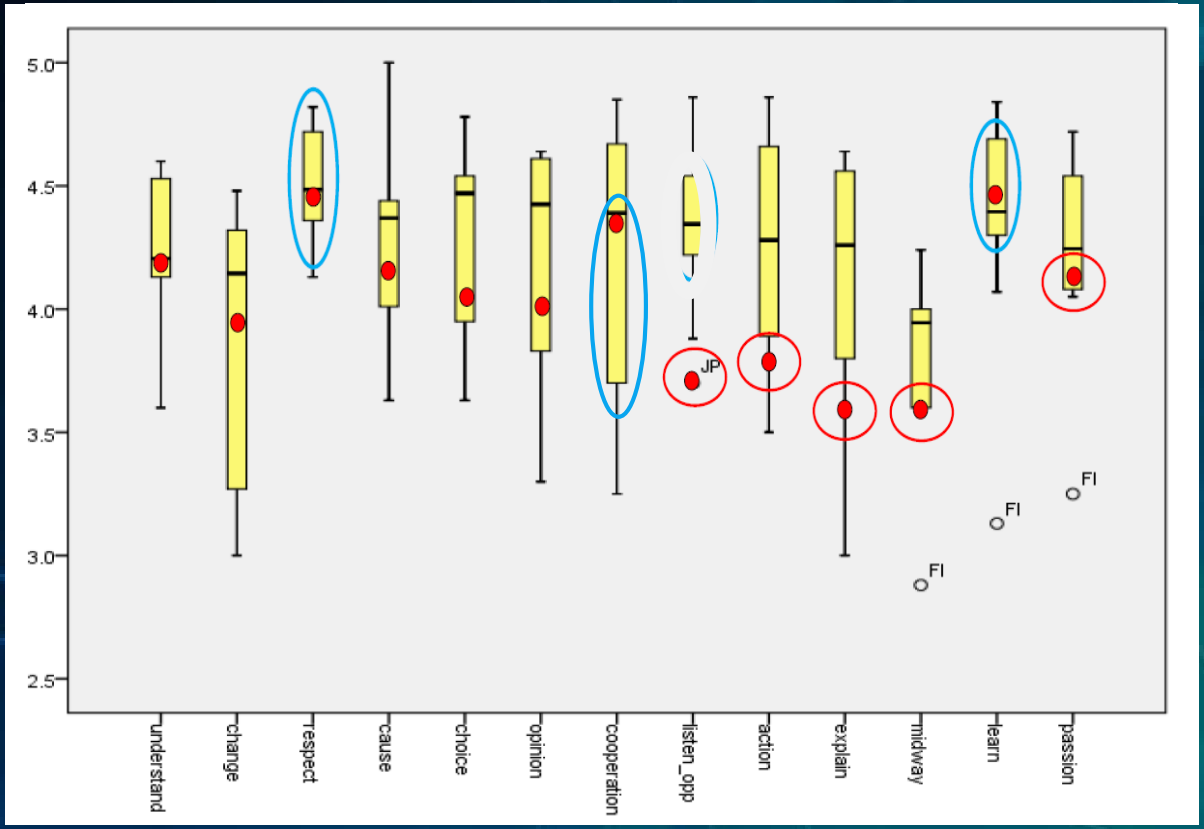
- 他文化や自己への理解(5.00)
- 海外生活や外国人との交流への希望(4.94)
- 将来の留学、就職、国際的リーダーとしての活躍意欲(4.10)
- 社会的場面における行動力や議論力(4.08)
- 自分に対する全般的な自信(3.60)
- 国際情報の受発信への興味(3.43)

他者理解への意識や意欲は高い。
一方、積極的な行動力や発言力、全般的な自信が低い傾向にある。

H27 （調査概要）
10ヵ国高校生国際比較

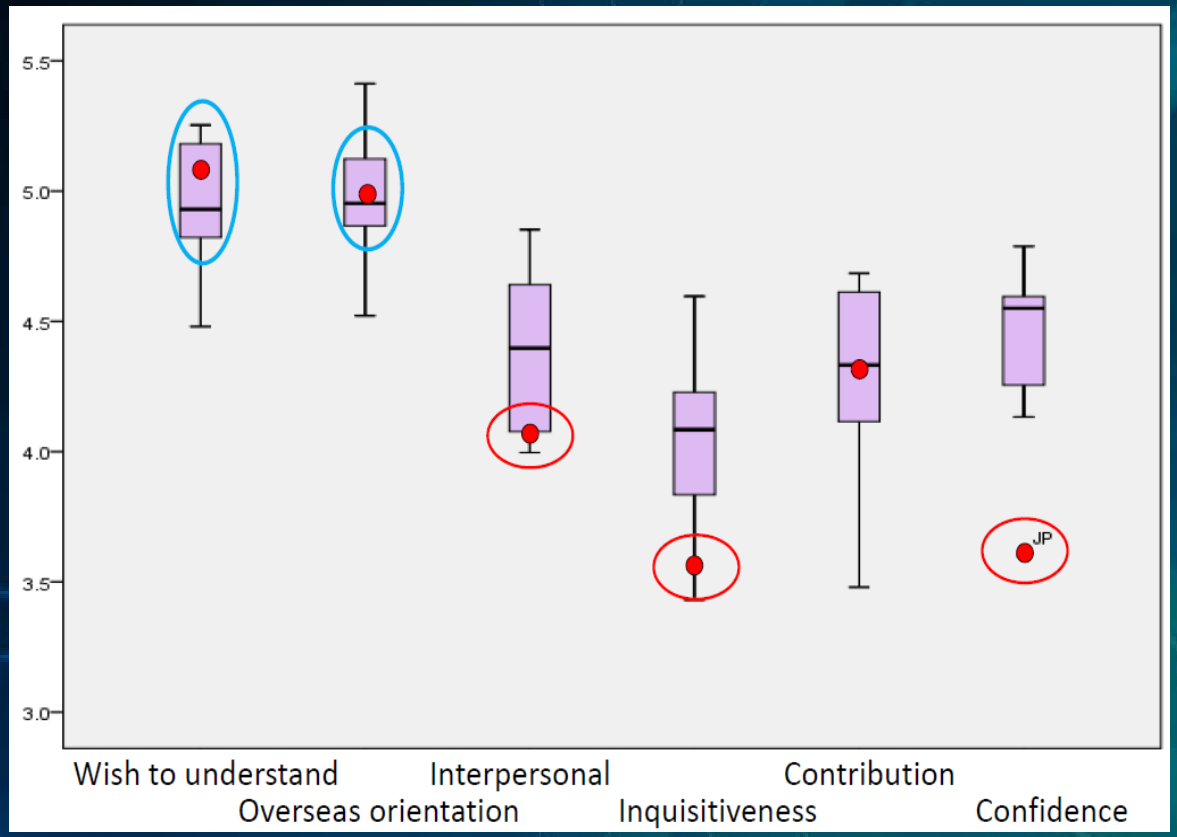
海外研究者との協力による10ヵ国の現地高校生を対象としたアンケート調査により、コンピテンシー・マインドセット等について国際比較する。

H27（結果１）：10ヵ国比較
グローバルコンピテンシー



日本も含め国際的に
「異なる価値観」
「協力関係構築」
「経験学習」が高い。
一方、日本は国際標準より
「反対意見の聴取」
「効果的な説明」
「得意分野活用」
「途中の確認作業」
「問題解決熱意」
が低い。

H27（結果２）：10ヵ国比較
グローバルマインドセット



日本も含め国際的に「他文化・自己理解」「海外交流希望」が高い。

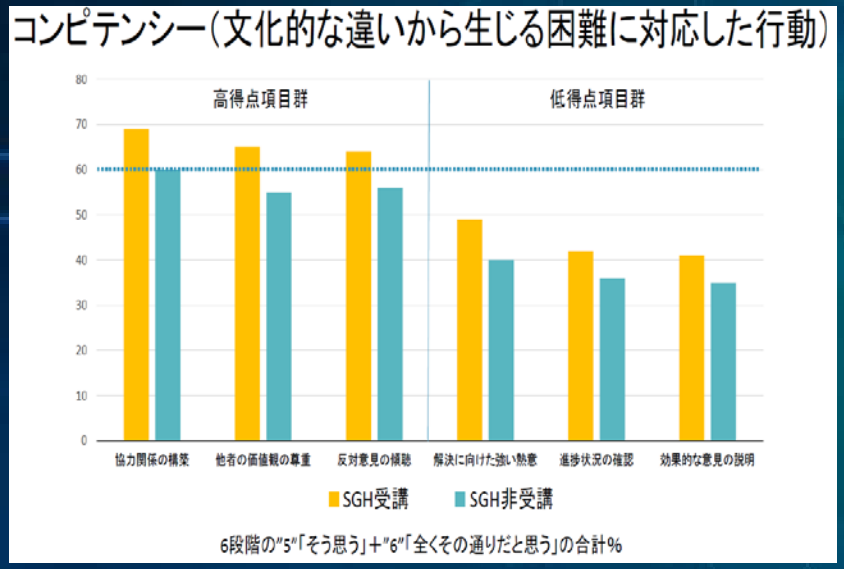
一方、日本は国際標準に比べ、「自分に対する自信」「国際的な受発信」「行動力・議論力」が低い。

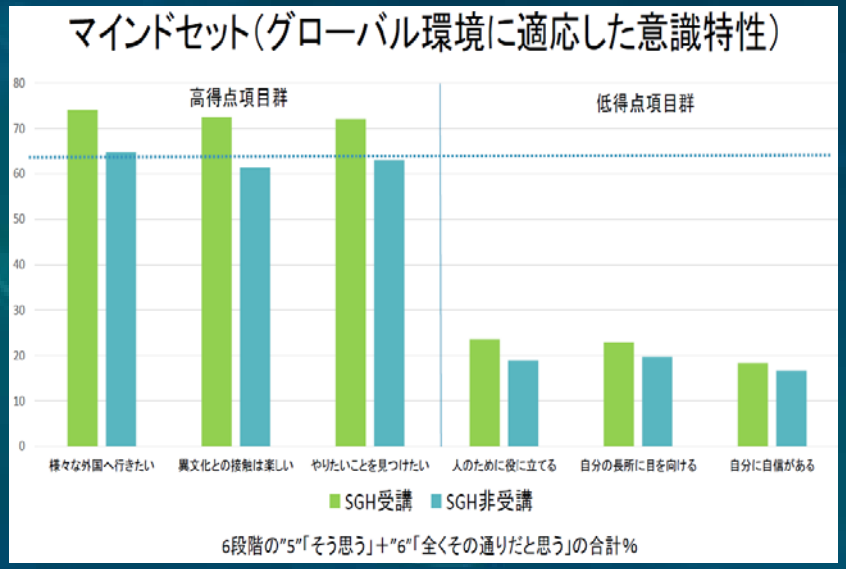
H28 （調査概要）
SGHプログラム効果検証

SGH受講の有無がグローバルな意識や行動にどのような育成の違いをもたらすかについて、受講生と非受講生のアンケート調査を用いて分析する。

H28（結果１）：SGHプログラム受講生・非受講生間の効果比較

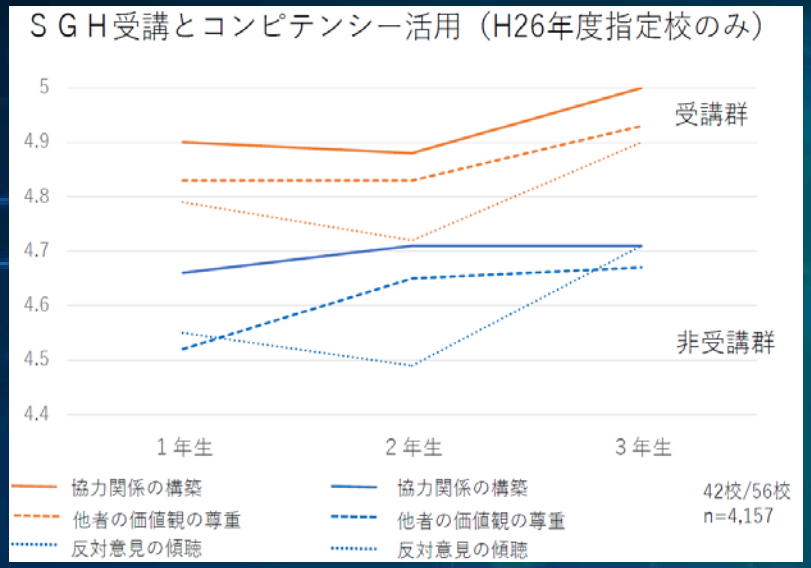
コンピテンシー（特に、異文化への対処行動群）、マインドセット（特に、異文化への進出意欲群）ともに受講者は非受講者より得点が高く、SGHプログラムの効果が確認された。※受講生と非受講生に背景の差異はない。

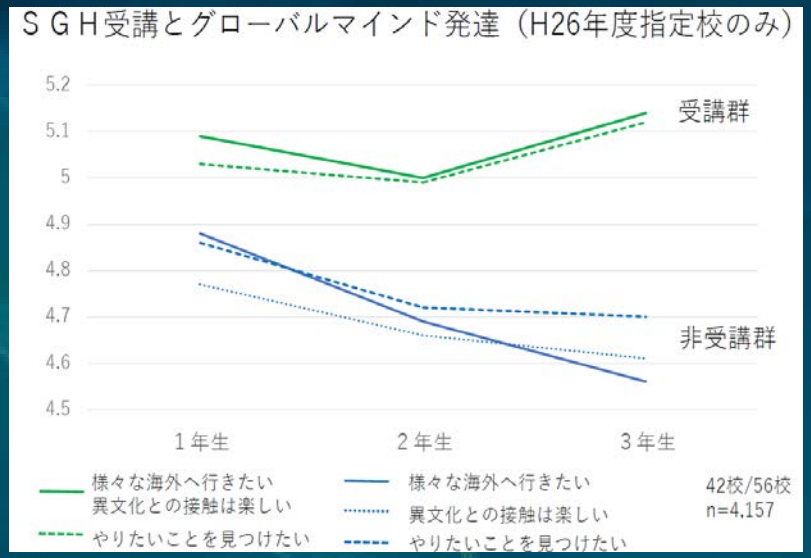




H28（結果２）：SGHプログラム
受講生と非受講生間の経年学習効果比較

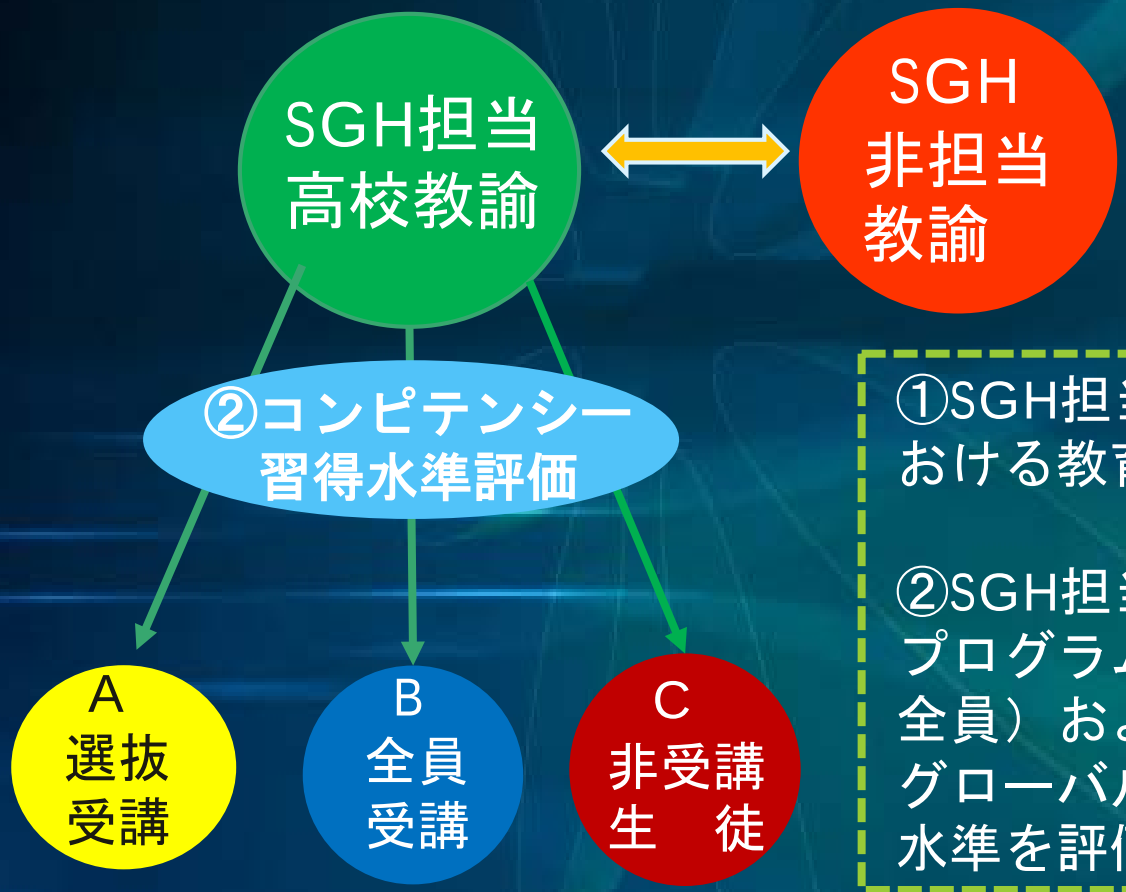
コンピテンシー、マインドセットともにSGH受講生は、非受講生に比べて２年生から３年生にかけて顕著な向上が見られる。





H29 （調査概要）
高校教諭の視点にもとづくSGH実践成果

①教育メソッド比較



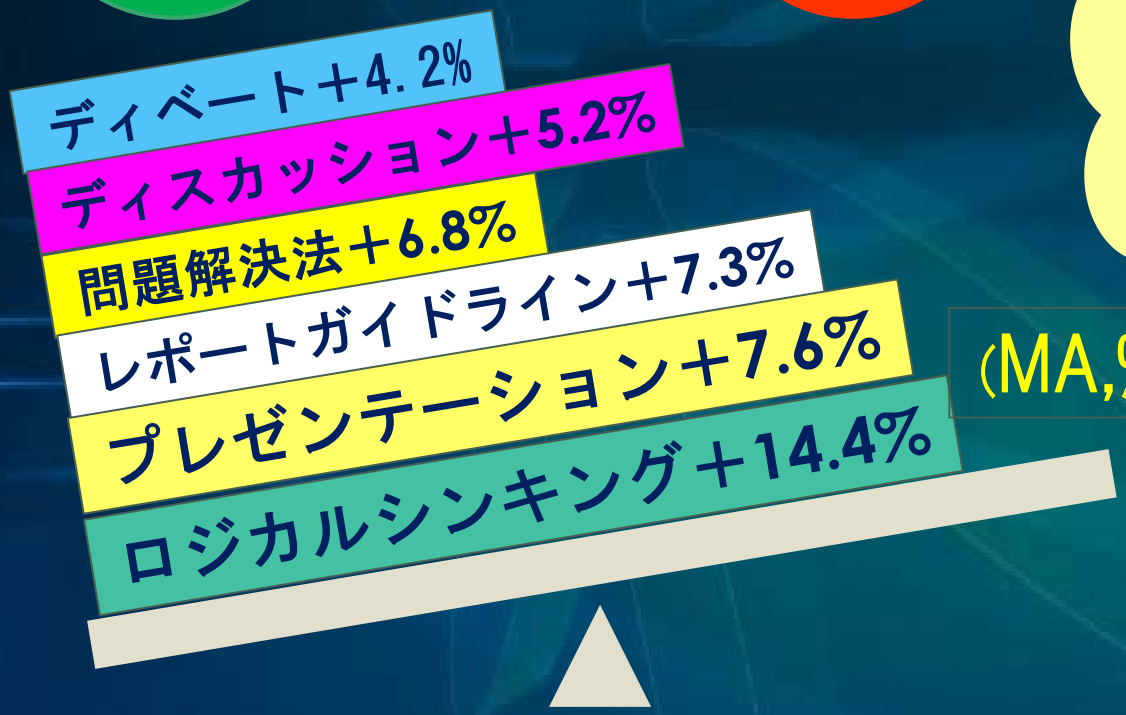
①SGH担当教員と非担当教員間における教育メソッドを比較する。

②SGH担当教諭の視点から、SGHプログラム受講生（A.選抜生徒・B.全員）および、C.非受講生徒のグローバルコンピテンシーの習得水準を評価する。

H29（結果１）: SGH担当教員と非担当教員間の教育メソッド比較

①教育メソッド比較

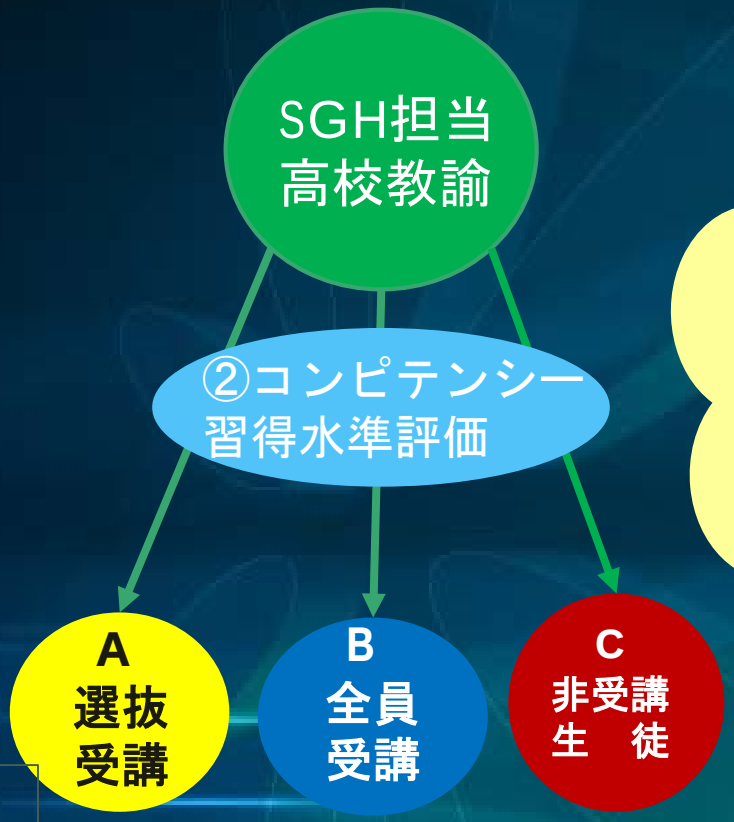
SGH担当高校教諭 ⟷ SGH非担当教諭



（MA,%）

SGH担当教員は、非担当教員に比べて、アクティブラーニングを多用している。

H29（結果２）: 高校教諭の視点にもとづく生徒のコンピテンシー



（6点尺度）

	A	B	C
コンピテンシー（78満点）	61. 73	54. 72	51. 72
%	79.14	70.15	66.30

選抜による生徒を対象とした選別受講生徒のコンピテンシーは、全員受講、非受講の生徒に比べて、高い水準でコンピテンシーを習得している。

今後のSGHの方向性として、ハイポテンシャルグローバル人材に特化した育成が考えられる。

H30以降の研究課題(案)

○卒業生を追跡調査し、関係するステークホルダーの評価を加え、時系列的かつ多面的にSGH活動の成果を検証する。
○国際標準の観点を含め、日本の高校生のグローバル教育水準を特定し、促進要因を検討する。
○本事業の成果を通して、全国の高校における次世代グローバル人材育成に役立つベストプラクティスを共有する。

	Ⅰ. 書面調査	Ⅱ.定量調査	Ⅲ.定性調査	Ⅳ. 国際調査
調査項目	目標指標の分析による事業成果の定量的検証	複数ステークホルダーの 視点からSGHプログラムによるグローバル人材育成の達成度と促進要因の特定	SGH卒業生の進路に役立つ高大接続や入試制度改革の情報収集・提案	国際水準に照らしたSGH活動の評価

検証評価アウトカム

①KPIにもとづく新指標設計 → ②日本型の次世代グローバル人材開発モデル設計 → ③ハイポテンシャルグローバル人材育成に向けた次期SGH展開